

## 平成24年度 第52回全国審判講習会を受講して

新潟県高等学校野球連盟審判部  
南支部 村山 祥雄

4月21日、22日の2日間、阪神甲子園球場、中沢佐伯記念野球会館で開催された平成24年度第52回全国審判講習会を受講してきましたのでご報告させていただきます。

### 記

1. 日 程：4月21日（土）10：20から4月22日（日）15：00
  2. 会 場：阪神甲子園球場・中沢佐伯記念野球会館
  3. 講 師：日本高等学校野球連盟審判委員
  4. 受 講 者：各都道府県代表1人（北海道は南北から各1人）の48名
  5. 受講内容：
    - 受付、点呼、あいさつ（奥島会長、赤井委員長）、講師紹介、諸注意、日程説明
    - 各塁におけるイメージトレーニング・説明
- 球審
- ・ 投球判定時は、トラッキングをしっかりとできるようにする。
  - ・ ホームでのフォースプレイやタッグプレイはダートサークル線上で見る距離が適当である。
- 塁審
- ・ 1塁塁審のフォースプレイの位置は送球に対して90°
  - ・ 構え方は、ハンズ・オン・ニーズセットポジション。
  - ・ セカンドへのファースト寄りの打球は打者走者の邪魔にならないファール地域。
  - ・ フォースプレイで野手の捕球、野手の触塁、打者走者の触塁が見える適度な距離。  
(離れすぎず、近づき過ぎず)
  - ・ ショートバウンドはボールの軌道と同じ目線で低く構える。
  - ・ ホーム方向への悪送球はファール方向へ動きタッグを見る。
  - ・ いいスタート（1歩目）と止まって見ることが重要。
  - ・ 2塁塁審で外へ位置しているときはほぼ打球判定なのでチームや選手の打力にもよるがなるべく深くに位置するようにする。
  - ・ 外野手の後方への打球を意識する。
  - ・ 内野内に入るときはセカンド側、ショート側どちらでもよいがメリット、デメ

リットを考慮し、位置するようにする。

- ・ 投球練習時のキャッチャーからのセカンド送球時に、送球ラインに位置しキャッチャーの送球の癖をなるべく早い段階で見抜くようにする。
- ・ キャッチャーからのセカンド送球時は、ボールから早めに目を切り、セカンドでのタッグプレイに備える。最初は怖いかもしれないが早めに目を切る勇気が必要。

□ 投球判定

□ フォースプレイの説明・判定練習

□ タッグプレイの説明・盗塁の判定練習

□ 打球に対する反応と判定練習

- ・ スタート（1歩目）を踏み出す。
- ・ ベース付近でどちらかわからないときはあげない。ノーボイスを利用する。
- ・ 外野飛球は基本スタンディングポジションで地面すれすれの打球はセットポジションで見る。
- ・ 止まって見るのが重要だが、背走キャッチやフェンス際の打球は捕球したかどうか確認するために再スタートも大事である。
- ・ ダイヤモンドを超えた時点で打球を自分でジャッジをする。
- ・ 飛球は野手の位置を頭に入れ風を読むことが重要。
- ・ ライン上の飛球は1度目を切ったら見失い、ボールの位置が分からなくなるため絶対にボールから目を離さない。
- ・ 落下点でプレイがおき角度はついているので打球を追うようにする。

□ フォーマーションの練習

- ・ 試合前に役割分担を事前に決めておく。（ダブルジャッジや外野飛球を2人で追うことを防ぐため）
- ・ 外野飛球を2人で追った場合は残った2人でカバーする。
- ・

□ ランダウンプレイの説明・判定練習

- ・ ランダウンプレイが始まったら塁間の1/4の場所に位置し、塁間の半分を担当する。
- ・ 最後のプレイを読む
- ・ 走塁妨害、守備妨害、ラインアウトがあるのでよく見る。

□ 本塁周辺のプレイ

- ・ 本塁でのオブストラクションはタッグに行く時だけ足を入れてもよいとなっているので、ボールを持っているからといって足を入れていいわけではないので間違わないようにしてもらいたい。
- ・ いろいろな妨害があるのでしっかりと勉強をし、妨害があった時に瞬時にジャ

ッジできるようにしておく。

- ・ 本塁周辺にかかわらず妨害が起きた時に場内放送するときは規則書の文言を使って簡潔明瞭に説明する。事前に各妨害ごとの文言を考えておくといざという時にスムーズに話せる。

□ 投手の投球・送球に関する説明

□ 座学

- ・ 高校野球特別規則の26項目を再確認するために今一度よく読んでおく。
- ・ 2人制について、練習試合等で行うようにすれば審判員個々のレベルアップを計れる。
- ・ 「高校生のための野球規則のABC PARTⅢ」が日本高等学校野球連盟のホームページで販売されているので審判委員も再確認のためにも見て確認してほしい。

## 6. 所 感

今回、講習会に受講した48名の中で最年少ということで期待や不安などがありましたが、同じ審判員でいろいろな指導を受け、情報交換などもできました。

まだまだ審判員としては未熟ですが、講習会、練習試合や公式戦等で多くのことを学び、これからの審判に生かしていきたいと思います。そして、いつの日か甲子園でジャッジできることを目標に日々努力していきたいと考えます。

最後に、県高等学校野球連盟の皆様や審判員の方々、職場、家族のご支援、ご協力のもとで、本講習会に参加をさせていただいたことに、心から感謝を申し上げご報告とさせていただきます。

以上